ニュースレター
2018年10月26日

積水ハウス株式会社

「ウッドデザイン賞2018」を受賞、創設以来4年連続で受賞

積水ハウス株式会社は、10月25日に発表されたウッドデザイン賞運営事務局※1主催の「ウッドデザイン賞2018」（林野庁補助事業）において、ライフスタイルデザイン部門「住宅の長期使用を実現する木質材料の接着耐久性評価に関する研究※2」 とソーシャルデザイン部門「サプライヤーと実現する、木材調達ガイドライン」が、ウッドデザイン賞を受賞しました。

今回の受賞は、「ウッドデザイン賞2015」の優秀賞である林野庁長官賞を受賞した「シャーウッド純国産材プレミアムモデル」から4年連続の受賞となります。

「ウッドデザイン賞2018」における、当社の受賞項目は下記のとおりです。

＜ライフスタイルデザイン部門＞
住宅の長期使用を実現する木質材料の接着耐久性評価に関する研究
＜ソーシャルデザイン部門＞
サプライヤーと実現する、木材調達ガイドライン

ウッドデザイン賞は、木の良さや価値を再発見させる製品や取り組みについて特に優れたものを消費者目線で評価し、表彰する顕彰制度です。これによって、“木のある豊かな暮らし”が普及・発展し、日々の生活や社会が彩られ、木材利用が進むことを目的としています。

表彰部門には、「ライフスタイルデザイン部門」「ハートフルデザイン部門」「ソーシャルデザイン部門」の３部門があり、受賞作品には「ウッドデザインマーク」の使用が認められます。

JAPAN WOOD DESIGN AWARD 2018

なお、11月20日には、全受賞作189点の中から、最優秀賞（農林水産大臣賞）1点の他、優秀賞（林野庁長官賞）、奨励賞（審査委員長賞）、本年より新設された特別賞（木のおもてなし賞）が発表される予定です。

当社は、社会システムの変化や技術革新のスピードが加速する中で、将来のさらなる環境変化に備え、より広範な事業領域において時間軸を意識して、2050年に向けた長期ビジョンを策定しています。今回受賞した「住宅の長期使用を実現する木質材料の接着耐久性評価に関する研究」と「サプライヤーと実現する、木材調達ガイドライン」は、当社の2050年ビジョン達成に向けた取り組みです。

今後も環境・社会の価値を創造し持続可能な社会を先導する取り組みを推進してまいります。

※1　ウッドデザイン賞運営事務局は、特定非営利活動法人　活木活木（いきいき）森ネットワーク、公益社団法人国土緑化推進機構、株式会社ユニバーサルデザイン総合研究所の3者から構成されるウッドデザイン賞の運営及び関連事業を推進する組織です。
※2　国立大学法人静岡大学との共同応募

SLOW & SMART
ゆっくり生きてゆく、住まいの先進技術。

【本件についてのお問合せ】　積水ハウス株式会社　広報部
（大阪）TEL　06-6440-3021　（東京）TEL　03-5575-1740
（本社）大阪市北区大淀中1-1-88　梅田スカイビル　タワーイースト

ECO FIRST

各受賞内容について

<ライフスタイルデザイン部門>

住宅の長期使用を実現する木質材料の接着耐久性評価に関する研究
（国立大学法人静岡大学との共同応募）

木造建築物の主要な構造躯体である集成材の柱・梁等の接着耐久性に関する基礎的な研究を継続していくことは、今後の良質な住宅ストックを社会に提供していくために欠かせません。特に永きにわたり住み続けられる木造住宅を開発するにあたり、木質材料の経年による強度等の変化の把握・予測は、建物の構造安全性を維持するために重要な研究です。

積水ハウスでは、国立大学法人静岡大学と共同で、様々な条件の促進劣化試験を実施することで、本来は数十年の実績が必要なところを、短期間で推測する技術的アプローチを行い、室内環境における木質材料の長期耐久性の可能性を示しました。

また、お客様にその価値を提供すべく、木造住宅シャーウッドにおいて「構造・防水初期保証30年」制度を開始しました。これからも様々な観点から木材活用に繋がる研究を進め、木造住宅の開発を通じて、お客様の満足度をさらに高めるとともに、安全・安心で快適な住宅を提供し続けます。

長期使用を実現する高い耐震性の
木造軸組構法「シャーウッド構法」

30+ ユートラス U-trus system

住宅の30年保証とユートラスシステム

※「ユートラスシステム」については、下記ホームページをご参照ください。
http://www.sekisuihouse.com/support/sup0504.html

<ソーシャルデザイン部門>

サプライヤーと実現する、木材調達ガイドライン

積水ハウスでは、2007年に策定した独自の「木材調達ガイドライン」により、持続可能な木材の調達に向けて取り組んできました。国産材については、国内の森林経営の健全化にも配慮して、調達基準にその意義を明記しています。

2010年には、住宅の主要構造部となる柱に国産材を活用すべく、木造住宅シャーウッド構造材に国産材仕様の整備を進めてきました。また、全国の産地と連携し、新たなサプライチェーンを構築して材料安定供給を進め、柱については3樹種15ブランド[※3]の国産材産地との連携が進んでいます。これにより、樹種の選択肢が広がり、お客様の住まいにより近い産地で育った国産ブランド材の提供が可能となりました。

「木材調達ガイドライン」は生物多様性保全への配慮はもとより、伐採地における社会的側面への影響も具体的に検証し、持続可能性を総合的に評価する独自の仕組みです。その新規性から世界的なESG格付け「CDPフォレスト」（2017年）において国内最上級（国内4社のみ）のA-として評価されています。

柱に樹種と産地を表示

「木材調達ガイドライン」に則った
持続可能な伐採

※3　道産カラマツ（北海道）、秋田スギ（秋田）、日光ヒノキ（栃木）、秩父ヒノキ（埼玉）、甲州ヒノキ（山梨）、静岡ヒノキ（静岡）、木曽ヒノキ（岐阜）、東濃ヒノキ（岐阜）、吉野ヒノキ（奈良）、吉野スギ（奈良）、美作ヒノキ（岡山）、大山出雲ヒノキ（島根）、 石鎚ヒノキ（愛媛）、土佐ヒノキ（高知）、飫肥スギ（宮崎）